

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成27年3月6日に陸奥湾2定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。※4~9月は久栗坂・川内のみ

1 ラーバの出現数

オベリア類(通称クサ)のクラゲは、久栗坂沖で20.0個/トン、川内沖で24.2個/トン見られました。(図1)

キヌマトイガイのラーバは、久栗坂沖で93.9個/トン、川内沖で1,013.3個/トン見られました。(図2)

その他の付着生物のラーバ等の出現数は表1のとおりで、ユウレイボヤ、ザラボヤ、ネンエキボヤは見られませんでした。

なお、マボヤラーバが久栗坂沖で0.6個/トン見られました。

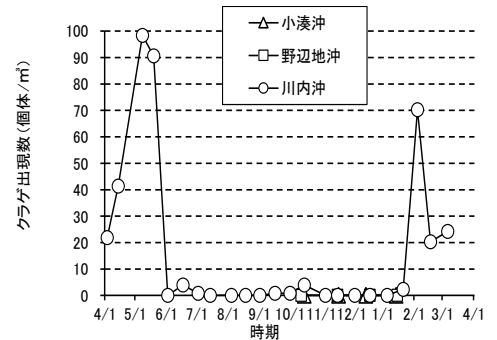
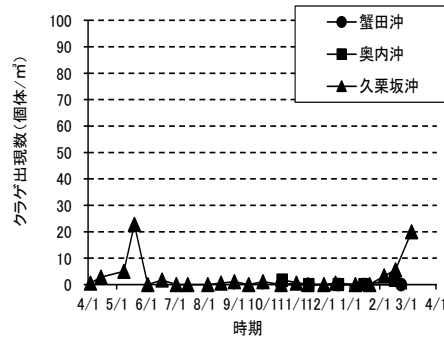


図1 オベリア類(通称クサ)のクラゲ出現数の推移

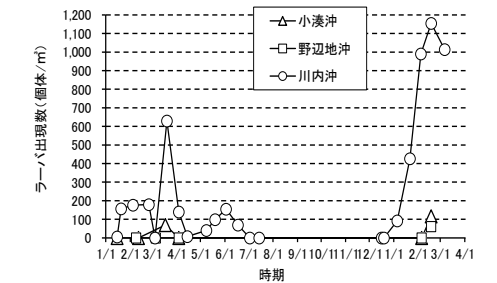
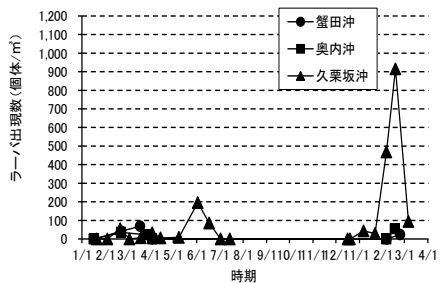


図2 キヌマトイガイラーバの出現数の推移

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	ネンエキボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
久栗坂沖	H27.3.6	0.0	0.0	0.0	20.0	93.9
川内沖	H27.3.6	0.0	0.0	0.0	24.2	1,013.3

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

表2 各ブイの中層における日平均水温(3/9)

観測地点	水温(°C)	観測地点	水温(°C)
平館ブイ	8.7	野辺地ブイ	6.4
奥内ブイ	7.7	東湾ブイ	5.7
青森ブイ	7.9	浜奥内ブイ	5.4

※奥内,野辺地,浜奥内は10m層,他は15m層

2 水温の状況

各ブイの3月9日の平均水温は表2のとおりです。

3 今後の見込み

オベリア類のクラゲの出現数は昨年同時期並みの出現数となっております(図1)。

キヌマトイガイラーバは一旦減少していますが、川内沖では昨年同時期より多い出現数となっております(図2)。過去、キヌマトイガイが多い年は5~6月にかけて再びラーバが増加する傾向があるので注意が必要です。

なお、久栗坂、川内の実験漁場では見られていませんが、調査定点以外の一部の地区のパールネットに5~6cm、30g位のザラボヤ(正式名称:ヨーロッパザラボヤ)の付着が見られました(写真3)。付着数は多くないようですが例年より大きく今後産卵しそうな個体が目立っています。ユウレイボヤも大型の個体が昨年より目立っており、成熟し始めている個体が見られているとの情報があるので、どちらも他の付着生物と同様に陸上処理を徹底して下さい。

また、室内飼育試験中のネンエキボヤからラーバの発生が見られました、発生時の水温は約10°Cでしたので、今後湾内の漁場でも水温10°C位になるとラーバの発生と付着が始まるものと予想されます。

今後のラーバ等の出現動向、付着状況については、次回(3月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。

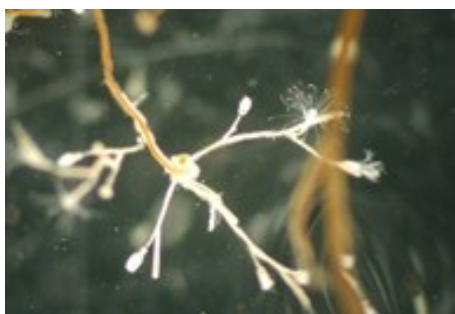


写真1 付着1ヶ月以内のオベリア類



写真2 付着1ヶ月以内のキヌマトイガイ



写真3 ヨーロッパザラボヤ

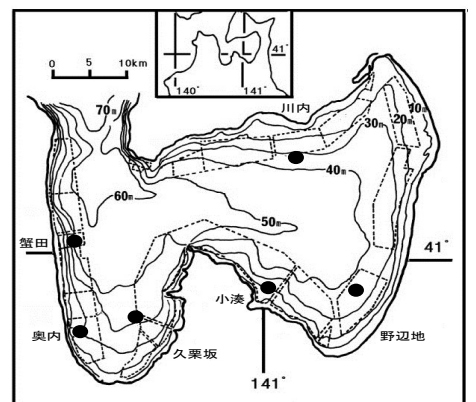


図3 ラーバ調査地点

